

SDGs未来都市等進捗評価シート

群馬県みなかみ町

2020年8月

SDGs未来都市計画名

みなかみ町 SDGs未来都市計画
～水と森林と人を育む みなかみプロジェクト2030～

1. 全体計画

計画タイトル	みなかみ町 SDGs 未来都市計画 ～水と森林と人を育む みなかみプロジェクト2030～
--------	--

2030年のあるべき姿	・美しい自然と里地里山を中心に、観光・商工業・農林業・教育・健康・福祉・エネルギーなどの様々な分野が連携した、人と自然が共生する町。 ・利根川源流の町として、またユネスコエコパークの町として、人と自然の良好関係を保ち、持続可能な発展を続けるモデル地域としてSDGsの達成に貢献する。
-------------	--

	経済	社会	環境
2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール	ゴール8 ターゲット8.3,8.4,8.9 ゴール9 ターゲット9.4  	ゴール4 ターゲット4.7 ゴール1: ターゲット11a ゴール1: ターゲット17.17  	ゴール6 ターゲット6.6 ゴール1: ターゲット15.1,15.2,15.8,15a,15b ゴール7 ターゲット7.2 ゴール1: ターゲット12.2,12.8 ゴール1: ターゲット13.1     

優先的なゴール、ターゲットに関するKPI	#	指標名 ※[]内はゴール・ターゲット番号	当初値		2030年		進捗状況や課題等（定性指標や補助指標等を含む）
	1	観光消費額	2018年	18,636 百万円	2030年	240,000 百万円	2019年169,682百万円。積雪不足等による減少。天候の影響を受けにくい観光コンテンツの創出が課題。
2	地域経済循環率	2013年	96.4 %	2030年	100 %	2019年度未変動なし。地産地消等のさらなる推進を図っているところ。	
3	農業所得者の総所得金額	2017年	232,443 千円	2030年	250,000 千円	2019年212,606千円。天候等の影響による減少。	
4	木材ステーション（仮称）における出荷額	2018年	0 千円	2030年	10,000 千円	2019年度未0円。施設整備を進めているところ。	
5	ユネスコスクールに認定された町内小中高等学校の割合	2018年度末	0 %	2030年	100 %	2019年度未0件。8校中、3校の申請書がユネスコへ進達されているところ。	
6	社会増減数	2018年	△123 人	2030年	10 人	2019年△98人。	
7	地域づくり活動に関心を持っている町民の割合	2018年度末	50 %	2030年	80 %	2019年度未46.6%。	
8	サポーターズ会員（仮称）の数	2018年度末	0 人	2030年	50,000 人	2019年度未446人。「みなかみハートカード」制度が開始されその浸透が見られる。	
9	里山などの整備や野生動物・植物の保全活動をしている町民の割合	2018年度末	12.3 %	2030年	50 %	2019年度未10.6%。	
10	自伐型林業グループによる森林整備面積（森林・山村多面的機能発揮対策交付金実績による）	2018年度	23.3 ha	2030年	100.0 ha	2019年度未25.5ha。参加人数の増加が見られるなど取組が進んでいる。	
11	公共施設における薪ボイラー・ストーブ導入件数	2018年度末	ボ0 ス1 件	2030年	ボ3 ス10 件	2019年度未変動なし。※累計数値	
12	薪ストーブ新規導入件数（薪ストーブ補助金実績による）	2018年度末	0 件	2030年	150 件	2019年度未20件（※累計数値）。年度における補助件数の上限に達するなど今後の増加が見込める。	
13	家庭部門における二酸化炭素排出量	2015年度	28,111 t-CO ₂	2030年	20,000 t-CO ₂	2019年度未変動なし。	

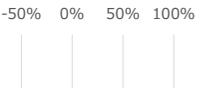
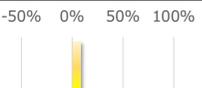
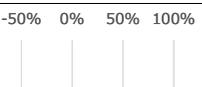
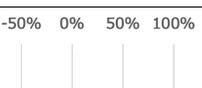
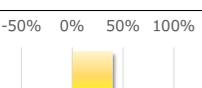
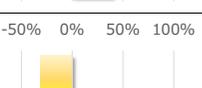
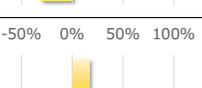
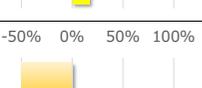
1. 全体計画

行政体内部の推進体制	自治体SDGsの情報発信・普及啓発の取組状況・課題	有識者からの取組に対する評価
<p>■各種計画への反映状況や課題 「みなかみ町第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略（2020年4月策定）」（※以下「総合戦略」という。）において、ユネスコエコパークの町として、SDG s 未来都市として、人口減少対策、地方創生という骨格に加え、全国に先駆けて広くSDG s に貢献する施策に取り組む旨明記している。</p> <p>■行政体内部の執行体制及び首長のリーダーシップ 上述の総合戦略の推進主体は、SDG s 未来都市の執行主体である「みなかみ幸せ創生本部（本部長：みなかみ町長）」であることから、より体系的で機動的なSDG s の取組が推進される。また、みなかみユネスコエコパーク推進委員会はユネスコエコパークの実質的な推進主体であり、多様な関係者と連携を図りながらユネスコエコパーク及びSDG s の推進を図る。</p>	<p>■域内向け：SDG s 未来都市についてみなかみ町広報に掲載。また、ユネスコエコパークに関する出前講座、及び小中学校の出前授業においてSDG s 未来都市の取組をスライドに掲載し普及啓発をしている。</p> <p>■域外向け：SDG s に関する新聞取材、及び関連団体の視察の受け入れ等によりみなかみ町のSDG s の取組を発信することができている。今後、地元ラジオ番組への出演等の予定もあるなど効果的な普及啓発が展開されているところ。</p> <p>■海外向け：ユネスコのwebページにおいてみなかみユネスコエコパークの掲載がある。</p> <p>■普及展開策：みなかみ町のSDG s を代表する取組の一つである自伐型林業の取組を通じて効果的に普及啓発が進んでいる。また、友好都市との交流を通じて多様な主体にみなかみ町のSDG s の取組を発信しているところ。</p>	<p>■三側面の統合が強く意識されている取組であり、引き続き着実な進捗を期待する。</p> <p>■「みなかみハートカード」制度とその進捗に注目したい。本制度が着実な域内経済循環につながっているか否かを注視して、進捗の管理をされることを期待する。</p> <p>■観光については、コロナ禍のもと2020年は厳しい状況と思われるが、長期的な達成を目指して強化を図ることを期待する。</p> <p>■SDGsが多様なゴールに気づかせるツールであることに鑑み、多様なゴールの重要性を町民や各ステークホルダーに認識してもらおうと共に、施策実施においても多様な観点からのチェックを行うことができる仕組みが構築されることを期待する。</p>
ステークホルダーとの連携	地方創生・地域活性化への貢献	
<p>■域内外の主体：みなかみ町役場内におけるみなかみユネスコエコパーク協議会等の事務局とSDG s の担当者を同一組織に配置するなど連携強化を進めている。また、計画の林業六次産業化に係る連携協定を締結しているオークヴィレッジ(株)や、木育の推進に係るNPO法人芸術と遊び創造協会などと良好な連携が図られている。</p> <p>■国内の自治体：日本ユネスコエコパークネットワークの構成自治体の担当者WG会議が2020年1月にみなかみ町において開催され、SDG s の取組についても情報交換をした。また、友好都市協定を締結しているさいたま市においてSDG s をテーマとしたイベントに参加するなど良好な連携が図られている。</p> <p>■海外の主体：文部科学省を通じてユネスコから適宜情報提供がある。</p>	<p>■地域での人々の暮らしの持続にSDG s の取組が大きく寄与し、人口減少傾向にあるみなかみ町の存続にSDG s の推進に取り組むことは必然である。みなかみ町のSDG s 未来都市計画にある取組は、SDG s の理念のもと経済の好循環を図るものが多くあり、例えば、2019年度に開始された地域ポイントカードシステムの「みなかみハートカード」では、地域の活性化に加え、町外からの関係人口の創出にも寄与する「みなかみ町を応援してもらおうための仕組み」として施策を講じているところである。また、町内の森林環境保全や木材経済の好循環を生み出すための自伐型林業の推進、民間企業との連携によるみなかみ町の魅力や価値の創出などにも積極的に取り組んでいるところである。</p>	

SDGs未来都市等進捗評価シート

2019年度

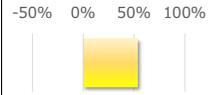
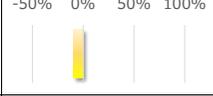
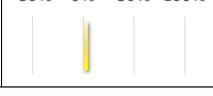
1. 全体計画

取組名	ターゲット	指標名	当初値	2019年	2021年	達成度 (%)	進捗状況や課題等 (定性指標や補助指標等を含む)
①木材の伐倒から利用まで一貫した林業の六次産業化	6.6 8.4,5	自伐型林業を実践するグループ数 (森林・山村多面的機能発揮対策交付金実績による)	2018年度末 6 グループ	2019年度末 8 グループ	2021年 12 グループ	 33%	2019年度も研修等を実施するなど推進を図っているところ。
	6.6 8.4,5	自伐型林業を実践する従事者数 (森林・山村多面的機能発揮対策交付金実績による)	2018年度末 46 人	2019年度末 74 人	2021年 100 人	 52%	2019年度も研修等を実施するなど推進を図っているところ。
	9.4	木材ステーション (仮称) における出荷額	2018年度末 0 千円	2019年度末 0 千円	2021年 10,000 千円	 0%	施設整備を進めているところ。
	15.1,2 ,a,b	自伐型林業グループによる森林整備面積 (森林・山村多面的機能発揮対策交付金実績による)	2018年度 23.3 ha	2019年度末 25.5 ha	2021年 50.0 ha	 8%	実践者が増加し、活動が活発化している。
	7.2 12.2 13.1	公共施設における薪ボイラー導入件数	2018年度末 0 件	2019年度末 0 件	2021年 1 件	 0%	町内における木材循環を図り、導入に向け取り組んでいるところ。※累計数値
	7.2 12.2 13.1	公共施設における薪ストーブ導入件数	2018年度末 1 件	2019年度末 1 件	2021年 5 件	 0%	町内における木材循環を図り、導入に向け取り組んでいるところ。※累計数値
	7.2 12.2 13.1	薪ストーブ新規導入件数 (薪ストーブ補助金実績による)	2018年度末 0 件	2019年度末 20 件	2021年 50 件	 40%	町内における木材需要の高まりなどを受け、年度における補助件数の上限に達するなど今後の増加が見込まれる。
②地域資源を活用した地域産業の振興と地域経済循環の仕組み構築	8.3,9	観光消費額	2018年 18,636 百万円	2019年 16,968 百万円	2021年 24,000 百万円	 -31%	積雪不足等による減少。天候の影響を受けにくい観光コンテンツの創出が課題。
	8.3,9	ローカルベンチャーの創業・起業件数	2018年度末 0 件	2019年度末 3 件	2021年 18 件	 17%	テレワークセンターの利用者などとの対話、情報提供、起業支援等を実施。※累計数値
	8.3,9	直売所の農産物販売額	2018年度 230,338 千円	2019年度 155,769 千円	2021年 250,000 千円	 -379%	天候等の影響による減少。

SDGs未来都市等進捗評価シート

2019年度

1. 全体計画

	取組名	ターゲット	指標名	当初値	2019年	2021年	達成度 (%)	進捗状況や課題等（定性指標や補助指標等を含む）
自治体SDGsの 推進に資する 取組の 2021年のKP	②地域資源を活用した地 場産業の振興と地域経済 循環の仕組み構築	8.3,9	サポーターズ会員（仮称） による町内消費額	2018年度末 0 百万円	2019年度末 266 百万円	2021年 500 百万円	 -50% 0% 50% 100% 53%	2019年度に町内の事業所で使用できる地域ポイントシステム「みなかみハートカード」制度が開始された。使用できる事業所並びに会員数は今後増加することから今後も数値の増加が見込まれる。
	③地域の将来を担う次世 代の育成	4.7 12.8	ユネスコスクールに登録された 町内小中高等学校の割合	2018年度末 0.0 %	2019年度末 0.0 %	2021年 70.0 %	 -50% 0% 50% 100% 0%	8校中、3校の申請書がユネスコへ進達されているところ。
		15.1,2 8,a,b	里山などの整備や野生動物・ 植物の保全活動をしている 町民の割合	2018年度末 12.3 %	2019年度末 10.6 %	2021年 30.0 %	 -50% 0% 50% 100% -10%	数値は減少しているが、生物多様性調査などの取組は活発化している。
	④パートナーシップによる持 続可能な社会の構築	8.9 11.a	ユネスコエコパークの理念や SDGs 達成に向けて取り 組む事業所・団体数	2018年度末 0 団体	2019年度末 0 団体	2021年 50 団体	 -50% 0% 50% 100% 0%	制度設計中。
		11.a 17.17	サポーターズ会員（仮称） の数	2018年度末 0 人	2019年度末 446 人	2021年 10,000 人	 -50% 0% 50% 100% 4%	2019年度に町内の事業所で使用できる地域ポイントシステム「みなかみハートカード」制度が開始されその浸透が見られる。